

令和元年度第1回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

【要旨】

日時 令和元年7月10日(水) 19:00~21:30

場所 羽咋市役所 401会議室

出席者

- 委員長 : 岩城 和男 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 副委員長 : 三宅 立美 (羽咋市町会長連合会会長)
- 委員 : 松永 義民 (羽咋市商工会理事)
- 若城 はる美 (はくい市観光協会協会専務理事)
- 武田 広 (はくい農業協同組合総務部長)
- 安達 吏和 (羽咋市教育委員会教育委員)
- 堀田 泰永 (羽咋市校長会瑞穂小学校校長)
- 加藤 友彦 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 中村 史人 (羽咋市銀行会 : のと共栄信用金庫
ふるさと支援室次長)
- 山田 真広 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 林 修二 (株式会社北陸中日新聞羽咋通信局長)
- 酒井 恵美 (羽咋市青年団協議会直前会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 新田 聡 (公募委員 : 一般)
- 大門 留美 (公募委員 : 一般)
- 欠席委員 : 大林 浩 (創和テキスタイル株式会社代表取締役社長)
- 出村 太一 (羽咋郵便局羽咋千里浜郵便局長)
- 春木 謙一郎 (七尾公共職業安定所羽咋出張所所長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- 松永 一美 (NPO 法人わくわくネットはくい理事)
- 圓山 晃歩 (株式会社御祓川)
- オブザーバー : 手持 佳也 (北陸財務局総務課長)
- 綿木 浩三 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー : 高山 純一 (国立大学法人金沢大学教授) ※途中から出席
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学特任助教)
- 市側出席者 : 中田 裕之 (副市長) ※挨拶後退席
- 今井 史也 (市参事兼産業建設部長)
- 若狭 義高 (市参事兼市民福祉部長)

川口 哲治 (総務部長兼羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長)
西井 健一 (教育次長)
山本 裕一 (企画財政課長)
清水 吉朗 (農林水産課長)
池田 博明 (商工観光課長)
山本 学 (都市づくり推進室室長補佐)
滝口 一彦 (生涯学習課長)
中島 一明 (6次産業創生室長)
和田 美紀 (総務課参事)
松田 義人 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局局長補佐)
見附 敦史 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局係長)
石本 哲也 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)
中瀬 莉奈 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : なし

1. 開会

2. 委員長挨拶

(略)

3. 副市長挨拶

(略)

4. 協議事項

羽咋市の人口動向に関する分析報告について

(略)

5. 重点審査7施策に係る質疑応答

- (1) ■基本的施策名：(1-1-1)『自然栽培』を中心とした農業の成長産業化
□具体的な施策名：『自然栽培』の生産・普及と『輸出産業』化 について

(質疑) T委員：自然栽培倍の現状の生産量はどの程度か。

(応答) 農林水産課長：水稻については、昨年度は38トンの生産量であった。ふるさと納税による販売が功を奏して30年産米については完売し、現在は、令和元年産米の予約の受け付けを行っている。令和2年産米については、現状を踏まえ、実行委

員会で、その作付計画を立てていきたいと考えている。

【総合評価】 総合評価については、○の取組内容の継続とする。

- (2) ■基本的施策名：(1-2-2) 羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出
□具体的な施策名：羽咋駅周辺の整備 について

(質疑①) T委員：羽咋駅周辺については、元々にぎわっていた。しかし、段々とにぎわいがなくなってしまった。整備するにあたり、その理由を分析しなければ、例えば、旧マルシェの跡地を利活用して、何かを建設したとしても上手くいかないのではないか。どうして、羽咋駅周辺が廃れていってしまったという分析はしてあるのか。

(応答) 地域整備課長補佐：駅周辺整備については、旧マルシェの跡地をどう利活用すればよいのか、ということの基本計画の中で検討しながら進めているところである。また、ハード面だけでなく、商業者の方々とも連携し、ソフト面についてもどうすれば、にぎわいを創出できるか検討していけばよいと考えている。

(質疑②) アドバイザー：道の駅のと千里浜は、のと里山海道の利用者をいかに市内に寄ってもらうかという、わかりやすく、明確なコンセプトがあったと思う。駅周辺整備におけるコンセプトはあるのか。例えば、どんな人を呼び込もうとしているのか、などの基本的なコンセプトは市ですでに決めているのか、それとも、委員会で決定していくのか、それとも、基本計画の策定段階でコンサルに委託して決めるのか。

(応答) 市参事：道の駅については、車の玄関口ということで整備・運営を行った。羽咋駅周辺は、駅としての玄関口として交流、にぎわいの創出を図ろうとするもので、市内の経済活動の好循環にもつなげようとするものである。そして、駅周辺と道の駅の周辺を結んで、その相乗効果を期待するものでもある。また、駅周辺整備については、市民向けにアンケートをとり、関係団体からもご意見を頂戴し、昨年、基本構想を策定した。基本構想には、大きく4つの整備方針がある。1点目は防災機能の充実施設として、2点目は子どもから学生、お年寄りまでが集える施設として、3点目は暮らしを支える商業施設として。この商業施設としての観点では、商業関係者と協議し、そのふさわしい規模や機能について、今後、検討していきたい。4点目は、今後、市の公共施設として、どんな機能が必要になるのか。将来に向かって段階的に整備をしていく。この4つの整備方針を盛り込んで、それらを具体化する基本計画について現在、作っているところであり、今年度、策定予定である。

【総合評価】 総合評価については、○の取組内容の継続とする。

(3) ■基本的施策名：(1-3-3) 起業・創業支援の強化

□具体的な施策名：第二創業、小規模事業者の後継者育成への支援 について

(質疑①) A委員：対象は小規模事業所ということだが、国が定める中小企業までが対象という認識でよいのか。

(応答) 商工観光課長：市内の小規模事業所が対象なので、国が定める中小企業より規模は小さくなる。市内に事業所と銘打つものは、小売店なども含めて600社ほどあると伺っている。さらに、その中の小売店は300社ほどだと考えており、それらが対象となる。

(質疑②) I委員：計画的に事業承継してもらうのであれば、金融機関の支援があった方がよいと思う。金融機関が仲介した場合の使い勝手の観点では、どう考えているのか。

(応答) 商工観光課長：対象者にこの事業を利用してもらうにあたり、商工会経由で相談させていただく以外に、対象者が資金計画を考えて利用するという観点から、金融機関にも制度の情報提供をしている。これまでに助成金利用の実績があった12件の中には、駐車場の改修や重機の購入など、実際いろいろな目的で広く活用してもらっているので、今後とも、金融機関とも密に情報交換を行って制度利用の門戸を広げたい。

(質疑③) J委員：自分は、現在、七尾の商工会議所で勤務しているが、事業所の方が事業承継で相談にくることはほとんどない。そのため、地元の金融機関や税理士の方に情報提供してPRすべきだと思う。また、事業承継することが決して悲観的なことではなく、前向きなことであるというPRも併せて行うべきではないか。

(応答) 商工観光課長：事業承継は、計画的に行われる場合と急に行われる場合があるので、金融機関を含め、連携を密にして制度のさらなる周知・活用に努めていきたい。

(質疑④) T委員：県でも事業承継の支援として、コーディネーターによる税理士の紹介などを行っている。県とも連携しながらやってもよいと考えるが、いかがか。

(応答) 商工観光課長：県には、事業引継ぎ支援センターがあり、同センターとも情報交換しながら取り組んでいるところであり、互いの相乗効果でさらなる周知を図ることができれば、と考えているので、県とも連携を密にしていきたい。

(質疑⑤) U委員：市の税金を使っている事業なので、このような支援金のおかげで事業

承継の実績につながっている事例は PR してもよいと思う。若い世代が先代を引き継ぐことは、その人にしてみれば新たな出発になる。もちろん、やむなく承継するなど、マイナスな要素の承継もあると思うが、もっと制度を PR することは決して悪いことではないと考える。

(応答) 商工観光課長：起業家支援と事業承継については、ホームページで見ることができるようになっているが、そこまで見て利用するケースは少ないかもしれない。今後、もっと大きなポスターなどで周知することなども検討してみたい。

【総合評価】 総合評価については、○の取組組内の継続とする。

(4) ■基本的施策名：(1-3-4) 多様な就労支援

□具体的な施策名：シニア世代保有技術の活用・就労支援 について

(質疑①) Q委員：シルバーの会員が作物を作るだけでなく、道の駅で販売まで行っているのか。双方を行っているのであれば、大変だと思うが、売るのは、別に任せてみてはどうか。

(応答) 商工観光課長：販売もシルバーで行っている。また、売るためのポップカードの研修会も自分たちで行っているということである。会員の中には、小売業を退職した方や市役所の OB の方もいるので、その方々で協力して販売まで取り組んでいる。また、これからは、市からも「シルバーの会員が作った野菜などを買ってみませんか」などの口利きを行うことなどの PR 支援も必要だと考えている。

(質疑②) T委員：シルバー人材センターの会員のできることをもっと知ってもらうために、会員になっている方々それぞれの特技をデータベース化して PR してはどうか。例えば、一般の人でも、そのデータベースにアクセスできれば、シルバー会員の方々の雇用と市場とのマッチングにつながると考える。

(応答) 商工観光課長：会員となる登録時に、個人ごとのスキルなども登録し、管理していると思うので、委員がご指摘した、問い合わせしやすい仕組みづくりを検討していきたいと思う。

【総合評価】 総合評価については、○の取組内容の継続とする。

(5) ■基本的施策名：(2-1-1) 移住総合相談窓口による地方移住支援

□具体的な施策名：地域おこし協力隊の活用と支援 について

- (質疑①) G委員：羽咋市から離れていった方の理由を聞くことはあるのか。
- (応答) 総務部長：例えば、自然栽培で夢を持ってきたが、やってみると辛かったという方や、家の都合で帰るという方もいる。詳しくは聞いていないが、最初の取りかかりの所で問題があったと認識しており、対応として実際の業務を体験する1か月のお試し期間を設けている。
- (質疑②) M委員：人口増加の観点でいうと定着者5人というのはあまり大きな数字ではないと思うが、より多くの転入者にどのようにつなげていくのか。
- (応答) 総務部長：5人は地域おこし協力隊の数字であり、地域おこし協力隊に限らず移住の施策は継続して行っている。また個人的には定着者数5人は多いと考えており、5人が家族を持って住むと考えると、さらに大きな数字になると考えている。ただ、転入者が500～600人ある中で、5人と見ると少なくも見え、伸びしろのある数字だと捉えている。
- (質疑③) G委員：農業に限った地域おこし協力隊の募集を行っているということだったが、他の産業に活用すると考えていないのか。
- (応答) 総務部長：これまで自然栽培やジビエのみではなく、道の駅に係る業務でも募集を行ってきた。そのほか、今年度からは漁業の募集も行っている。地域ごとに課題があり、地域課題と協力隊希望者のやりたいことがマッチングすることで事業が成立すると考えている。ただ単に、羽咋市へ来て何か商売をやってくださいという形だと、全国の自治体が募集する中で羽咋市を選んでもらえない。そのため、今のところはエッジの効いた自然栽培、ジビエ関連を中心に募集を行ってきたが、漁業のようにほかの分野も含め考えていきたい。

【総合評価】 総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

- (6) ■基本的施策名：(2-2-1) 観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大
- 具体的な施策名：『道の駅のと千里浜』を核とした交流人口の拡大 について

- (質疑①) R委員：まちなかの商店街や駅とコラボするような形で、道の駅からさらに引っ張っていくような仕組みをより深めていければよいのでは。
- (応答) 6次産業創生室長：駅前や市中心地の商店街の方々と連携して、軒下のにぎわい創出をしている。ご指摘を受け、また新しいチャレンジをしていければと思

う。

(質疑②) N委員：場所がよく、待ち合わせによく使う。しかしながら、率直な感想として本体のコンテンツがいまいちと感じている。利用された方が、本体のコンテンツについてどのような感想を持っているか聞く。

(応答) 6次産業創生室長：市へは、運営会社の羽咋まちづくり株式会社より、毎月のお客様アンケートをいただいている。中には、もう少しコンテンツをとという声もあるが、一方で、素晴らしいのでまた来たいという声もいただいている。この意見は社員の中でも共有しているものであり、今後、新しいコンテンツ作りや配置の工夫を行っていく。また、市外からの利用者だけでなく、市民の目線での構築を行っていきたいと考えている。

(質疑③) A委員：羽咋まちづくり会社に道の駅のと千里浜は、もうすでに合併しているのか。

(応答) 6次産業創生室長：羽咋まちづくり会社は主に道の駅の運営を担っている。そこに商品開発や外商、催事、マーケティングということを地域商社として、現在は市の方で行っているが、来年度、地域商社の機能を羽咋まちづくり会社に合流するスキームとなっている。来年度からは、羽咋まちづくり会社に自立自走していってもらうという形で支援をさせていただいている。

(質疑④) G委員：知り合いに商品を送るときに、商品についての説明や関連商品について記載のあるリーフレットがあるのが望ましい。気に入った商品があれば、個人での購入にもつながるため、リーフレットの充実をお願いしたい。

(応答) 6次産業創生室長：充実させていただく。

アドバイザー：リーフレットだとかさばるため、ショップなどによく置いてある名刺サイズのものもよいのではないか。

【総合評価】 総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

(7) ■基本的施策名：(2-2-1) 観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大

□具体的な施策名：博物館・歴史文化施設の改修と利活用 について

(質疑①) T委員：図書館の席数が少なく、学習スペースもいつも埋まっている。営業時間を延長するなど利用環境の向上の施策をお願いできないか。

(応答) 生涯学習課長：キャパシティの関係もあり、図書館自体に学習スペースも新たに確保することは難しい。また利用時間についても、指定管理者との契約や人

件費の問題から難しいところである。しかし、施設内で使っていない部屋がある際に活用できないか、指定管理者と協議しながら検討させていただきたい。

(質疑②) G委員：お子様向けのコーナーの壁が低く、読み聞かせする際に気をつかわなければいけないことになっている。お子様向けと大人向けコーナーの仕切りを天井まで作るなど、迷惑にならないようなスペースの区切り方をお願いしたい。もしくは、先ほどのお答えにもあったように部屋が空いている際に使えるような対応をお願いしたい。

(応答) 生涯学習課長：仕切りを高くするのは改修工事になるため、予算が必要となる。空いている部屋がある際に活用できないか、先ほどの質問と併せて、指定管理者と協議しながら検討していく。

(質疑③) M委員：既存の施設で対応できないのであれば、マルシェ跡地や建設予定の施設に入れてみようといった議論はあるのでしょうか。

(応答) 市参事：羽咋駅周辺整備の基本計画は策定中である。その中で、色んな市民の方からご意見・ご要望をお聞きしている中には、幼児スペースや読み聞かせスペース、学習スペースがほしい。特に通勤・通学の生徒などが時間のある際に学習もできるスペースがあればいいというご要望を承知している。新しい施設に機能を作るかは、既存の施設の利活用と併せて今後の検討課題とさせていただく。

【総合評価】総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

6. そのほかの施策の効果検証・評価の決定（43施策）

資料1の有識者会議審査結果（案）のとおりの評価で決定。

7. 講評

(1) オブザーバー：北陸財務局 手持佳也 総務課長

しっかりと地域の方々にご議論していただき、非常に良い会議だと率直に思っております。私は第一期の総合戦略ができた頃、各市町にお金をお貸しする仕事をしていました。その立場から見ると、償還確実性を高めるという視点から、なるべくより良い町になっていただくために、このような会議を踏まえていただくと、お金をお貸しする立場としては安心します。羽咋市は非常に頑張って地域の方々と一緒にやっておいでる、というお話を聞いておまして、今回参加させていただくことになりました。非常に良い議論がされたかと思えます。引き続き、皆様のご意見、ご議論を進められていただければありがたいなと思えます。

(2) オブザーバー：石川県中能登総合事務所 綿木浩三 所長

皆様、お疲れ様でした。今回から参加させていただいたということで、皆様のご議論をここはじっくり聞かせていただこうと思ひ、よくよく耳を傾けていたところでございます。こういう施策の評価、計画をもったものの評価ということになってまいりますと、収益性と公益性ということの観点で、どちらから施策の評価をするのかということがあります。公益性を優先するものについては、多少お金のことは論外にして、愛情をお金で測るわけにはいかないなど。先ほど聞いていましたシルバー人材センターの会員に関わる施策の KPI が売上高なのかと、ちょっと正直これかと思ひて聞いてはいました。どちらからアプローチをするにしてもその兼ね合いをどうするのか。税金に関する議論もありましたけれども、やはり最近の行政はお金がかからないようにするといった面もありますので、なかなか市民の皆さんの同意を得られないのかなという風に聞いていまして、大変厳しい現実があるなという風に聞いておりました。また、基本目標 3 と 4 の評価、議論もあるということで、今度はどちらかという行政の方に関わってくる目標になってくるので、どのようなご議論がされるのかなと自分なりに評価して、この場に臨みたいと思ひます。最後になりますけど、道の駅のと千里浜に私も行ってまいりました。本当に海に近い施設でして、白を基調とした施設、ものすごく海にマッチして、しかもロゴだとかデザインとか、あか抜けているなというイメージで、なにかこのデザインがすごい気持ちの良さにつながっていると感じました。今後、施策を展開するうえでも、あのデザインの良さはすごく大切にさせていただきたいなという風に思ひています。以上でございます。

(3) アドバイザー：国立大学法人金沢大学 高山純一 教授

私はずっと第一期総合戦略の当初から関わってきて、羽咋市そのものはずいぶん頑張っているなと思ひます。ただ、やはり小さな市ですので、いろいろ頑張っているんだけど、限界も当然あるな。ただ、役所と地元とそれから PTA とか、すべてがうまく関わりながら実践できているということが、上手くいっている秘訣の一つかな。大きな町だとこうはいかないですね。顔が見えないっていうんですかね。住民の方々も役所の顔が見えないし、役所も住民の方々の顔が見えないといった風に大きな町だとそうなるんですが、羽咋市ぐらいただとそのへんがもうよく見えていると。よく見えているということは、一方で、変なことをやるとそれが全部見えちゃうということなんです。逆に、地元もきちっとやれば、それは役所もちゃんと見てくれているということにつながるかなと思ひます。これは非常に大事にされたらいいなと思ひています。それでいくつか重点審議した施策の 4 番(シニア世代保有技術の活用・就労支援について)、5 番(地域おこし協力隊の活用と支援について)、6 番(『道の駅のと千里浜』を核とした交流人口の拡大について)、7 番(博物館・歴史文化施設の改修と利活用について)を聞かせていただきました。4 番のシルバー人材センターの活用とといいますか活性化というか、これは非常に大事なことだと私は思ひています。シルバー人材センターによる産物売上額が KPI になっていますけど、本来売上高

で測れないものがあるんです。具体的に言うと、健康寿命がどれだけ伸びるかっていうところにごくこれが効いてくると私は思うので、どんどんシルバー人材センターに登録する人を増やしてほしい。ですから、シルバー人材センターの登録人数もきちっと本来は KPI の指標にいれてもいいんじゃないかと。これはもう 65 歳過ぎて退職した人は全員登録するくらいの勢いでやっていただきたい。会員の方が常に活躍できなくても、何か自分の特技を活かせたら、それだけで健康寿命が延びると思うんで。そう考えると、羽咋にとって非常にこのことは財産になるはずですので、是非そこは一つ考えて欲しいなと思うのが一点です。それから、先ほど農業から漁業、ジビエに関する取組みがあるんだろうと思うんですけど、どちらかというとなんか 1 次なんですよね。それを販売するのは 3 次です。そこだけだとちょっと手薄なので、これは 2 次を入れた後で 6 次産業化というものがありましたけども、6 次産業化まできちんとシルバー人材を活用できるような仕組みというものを起こしていただくのが収益性につながると思うので、そこは是非がんばってほしいなと思います。先ほどのご意見があったように特技をデータベース化していくといった、おそらくそれは登録されているんだと思うんですけど、そこが見える化していないといったところに課題があって、誰それとは言わなくても、こういう人材の人がこれくらいいますよ、そういった人達がいっ、例えば、こういう作業ができますよといったことをホームページに書いてあると、いろいろなお願いがしやすいのかなと思っています。そこまできちっとやっていただくと、非常に活性化するんじゃないかなと思っています。5 番目の地域おこし協力隊の登用人数について、延べ 14 人という実績であったこと。これはかなり立派な数字だと私は思っているんです。他の所から、地域おこし協力隊という形にしる、来て、がんばるってなかなか大変ですよ。そういう意味では羽咋の特性、ジビエだとか自然栽培だとか、そういうものがあつたからこそたくさんそういう人たちが来てくれているんだろうと思います。これをさらに、世界にとは言いませんけど、日本全国に PR する仕組みをもっとつくっていただくと協力隊でなくても来てもらえる可能性があるんです。せっかくこれだけやったのがあんまり活かされてないのかなと。SNS でもいいですし、なんでもいいんですけど、もっとやってみようと、5 人なら 5 人定着したよってことをもっと PR するような仕組みを入れた方が、今後の発展のことを考えれば、そっちがいいんじゃないかなと私は思います。退職した後に漁業、農業に興味があつたりする人も出てくると思うので、是非そこはもっともっと PR するような仕組みを考えていただいたらいいのかなと。それから、6 番目の「道の駅のと千里浜」の利用者数、7 番目の「コスモアイル羽咋」の利用者数については、これはもうかなりちゃんとやっていますし、成果もあがっていますので、あんまり言うことはないんですけど、これもやっぱり能登全体を武器にすべきだなと。羽咋っていう名前だけでは、やはり弱いと思うんです。知っている人は知っていますが、まず読めないという人がいっぱいいますから。そういう意味では能登を全面にうまく出す、その能登の入り口なんだということをもっと PR して、羽咋ということを知ってもらえるようなことをすべきではないかなと思っています。最近能登

で、熊も出るし、イノシシも出るそうなので、ジビエをもっとうまく活用できるのかなと。この前新聞に、石川県全体で1万3000頭くらいのイノシシを捕獲しているそうなんですけど、そのうち1割に満たないくらいしか、1000頭ちょっとくらいですかね、活用、食肉にしているのは。ですからすごくもったいない話だなと。いろいろな条件があると思うんですけど、もっともっとその辺がうまく活用できれば、もっともっとうまく活かせるのではないかなと思っています。道の駅に21万人来られるという非常にたくさんの方が来られていますけど、この内訳はどうなっているのかなというところが私は気になっています。県外なのか県内なのか、あるいは市内なのか、この21万人という数字の内訳をきちっと捉えたうえでの戦略を考えた方が私はいいと思います。それは先ほどのコスモイル羽咋についても7万1000人利用されるってことで、これもやっぱり内訳が大事で、特に先ほど利用時間の話がありましたけども、平日の利用者が多いのか、土日祭日の休みの日が多いのか、あるいは利用する時間帯はどういう風になっているのかということもきちっと捉えたうえでの戦略を考えないと。いつもいっぱい行って本当にいっぱいなのかという気がするんです。皆さん利用したいときに行くからいっぱいなんだと思うんですけど、空いている時間も必ずあるはずなので、そういうところをうまくPR、お知らせして、こういう時間帯ならちゃんと使えますよっていう、そういうもっと有効に活用するようなこともぜひやっていただいたほうが良いのかなとこんな風に思います。ちょっと厳しめの評価になったかもしれませんが、よろしくをお願いします。

7. 閉会